

令和4年度  
自己点検・自己評価報告書

学校法人八木学園  
愛知文化服装専門学校

令和5年6月作成

# 学校情報公開

## ■ 愛知文化服装専門学校について

本校は1936年に“限りない愛”と“豊かな知性”を基本理念に校名を“愛知”と名付け創立されて以来、常に堅実な歩みを続けてまいりました。入学資格を高校卒業以上とした学校法人組織の服飾専門学校として、常により新しいもの、より美しいものを求めて構成される高い教育内容とすぐれた設備、そして品格ある校風を築き上げてきた学生の素質のよさという点でも、文字通り、ファッション界の名門と呼ばれています。

本校は、日本ファッション界のリーダーである文化服装学院の全国でも屈指の連鎖校として指導の面では常に東京の本校と密接なつながりを保ちながら、系統的な本物志向の服装教育を行っています。

ファッションスペシャリストを育成する本校の職業教育に対し、愛知県知事より専修学校特色教育認定校に、また、「未来のファッション産業界における人材育成のための教育システム開発」の研究に対して、文部科学大臣より中部地区で最初の特定研究推進事業協力校に指定されています。アパレルCAD、CGをいち早く導入するなど、多様化している産業界に対応した合理的なカリキュラムと指導体制を整え、服装の専門的知識技術をトータルに教授し、企業で即戦力として活躍できる少数精鋭のファッションクリエイターの育成に努めています。

## ■ 基本情報

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地							
愛知文化服装専門学校		昭和53年4月1日	八木 久子		〒467-0002 名古屋市瑞穂区川澄町一丁目5番地 (電話) (052) 851-1117							
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地							
学校法人 八木学園		昭和26年2月1日	八木 久子		〒467-0002 名古屋市瑞穂区川澄町一丁目5番地 (電話) (052) 851-1117							
分野	認定課程名	認定学科名		修業年限	昼夜	専門士	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
服飾・家政	専門課程	アパレル科		2年	昼	○	1900時間	330時間	30時間	1540時間	-	-
		ファッションデザイン専攻科		1年	昼		950時間	130時間	-	820時間	-	-
		アパレル技術専攻科		1年	昼		950時間	120時間	-	830時間	-	-
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、服装の専門的知識技術をトータルに教授し、企業で即戦力として活躍できるこれからのファッション産業界のリーダーとなるべき人材の育成することを目的とする。											
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数				
170人		122人		9人		8人		17人				
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価		■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 出席率・課題提出・定期試験等により、5段階で評価する。						
長期休み	■学年始め： 4月1日 ■夏季： 7月30日～8月17日 ■冬季： 12月19日～翌年1月10日 ■学年末： 3月16日～3月31日			卒業・進級条件		出席日数が年間の出席すべき日数の3/4以上で、全ての単位を取得していること。						
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応として、本人との面談や保護者の相談に応じる。			課外活動		■課外活動の種類 学内イベントの実行委員会 等 ■サークル活動： 無						
就職等の状況	■主な就職先・業界等 アパレル・ファッション業界 ■就職率 98%			主な学習成果(資格・検定等)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 パターンメイキング技術検定 ファッションビジネス能力検定 ファッション販売能力検定 ファッション色彩能力検定 洋裁技術認定資格						
当該学科のホームページURL	<a href="https://aichi-bunka.ac.jp/">https://aichi-bunka.ac.jp/</a>											

## 1. 学校の教育理念

- ① 「限りない愛」と「豊かな知性」を人材育成の理念とし、多様化している産業界に対応した合理的なカリキュラムと指導体制を整え、服装の専門的知識技術をトータルに教授し、企業で即戦力として活躍できるこれからのファッション産業界のリーダーとなるべき人材を育成するため、豊かな学習環境と教員の質の向上を目指す。
- ② 「建学の精神」「教育目標」のもと学生たちの夢と希望を叶えられるよう、時代が要請するような高度な専門性を持った即戦力となる人材育成をする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 創立87年を迎えて、時代とともに変化する産業界の動きに対応したカリキュラムを組み、「基礎力の徹底」を第一とする教育方針でファッションプロフェッショナルとして通用する知識・技術を備えた人材を育成する。
- ② 服飾・ファッション教育の伝統校として、全学科教育内容インターンシップによる企業実習、外部講師による講義など、業界研究を行い、より実践的な教育を実施する。また、業界関連セミナーへの積極的な参加も呼びかける。
- ③ 各種ファッションコンテストに学生に挑戦させる。
- ④ 各種検定資格の合格率向上のため指導強化に努める。
- ⑤ 学生の適性にあった就職を実現させるため、全教職員がきめ細やかに指導し、学生をサポートする。
- ⑥ 教員の質向上のため、各自の研鑽をうながし、業界関連セミナー等の研修会に参加させ教育の質向上に努める。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

適切…4    ほぼ適切…3    やや不適切…2    不適切…1

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	評価			
学校の理念・目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
学校の理念・目標・育成人材像は社会のニーズや要望を捉えているか	4	③	2	1
学校の理念・目標・育成人材像・特色などは学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて 方向づけられているか	④	3	2	1

#### 評価・改善点

教育理念・目標はしっかり定められている。ただし、社会のニーズは刻々と変化しているため、それらに  
適応していけるよう、見直していく必要がある。

#### (2) 学校運営

評価項目	評価			
目標に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
校務分掌に基づいた組織の運営や意思の決定が有効に機能しているか	4	③	2	1
校務分掌に基づいた教務・財務等の組織体系は整備されているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

#### 評価・改善点

運営方針・事業計画や就業規則等の策定はされているが、周知に問題が見受けられる。

IT 環境整備による業務効率化の検討が必要である。

### (3) 教育活動

評価項目	評価			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
実践的な職業教育の視点に立った学科等のカリキュラムは、体系的に編成されているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1

#### 評価・改善点

教育活動については、しっかり取り組まれている。

今後もファッション業界が求める人材を育成するカリキュラムの編成を研究し、推進していく必要がある。

### (4) 学修成果

評価項目	評価			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
ファッションコンテスト等へ参加の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

#### 評価・改善点

学修成果、資格取得、コンテスト入賞実績、就職状況については、入学案内書やホームページ上で公開し、理解が深まっている。卒業生の社会的評価等については、今後把握していけるよう努力が必要がある。

#### (5) 学生支援

評価項目	評価			
進路・就職に関する支援は行われているか	④	3	2	1
学生相談に関する支援は行われているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援は行われているか	④	3	2	1
学生の健康管理に関する支援は行われているか	④	3	2	1
学生の教育生活について保護者と連携しているか	④	3	2	1

#### 評価・改善点

学校独自の学費の無利子の奨学金貸与制度もあり、学生支援については積極的に相談に応じている。2021年度からは高等教育修学支援新制度の対象校に認定されたため、より一層の支援が可能となった。また、2022年度は「物価高に対する経済支援事業」を活用し、学用品購入補助などの支援を行った。

#### (6) 教育環境

評価項目	評価			
教育に必要な機材設備 必要性に対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の研修、インターンシップ、海外研修等について、適切な教育環境が整備されているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

#### 評価・改善点

教育環境については、2017年度に校舎を新築移転し、施設・設備等は整っているが、最新技術の導入も検討が必要である。

防災については、体制も訓練もできているが、災害発生時に臨機応変に対応できるように今後も定期的に訓練の実施を行っていく。

#### (7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当な金額となっているか	④	3	2	1

#### 評価・改善点

学生募集については、2022年度も引き続きオープンスクール等を工夫し、好評を得ている。

学校ホームページやSNSも活用して、より学校の魅力が伝わるようにしていく。

## (8) 財務

評価項目	評価			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### 評価・改善点

財務については、適切に行われており、現在は、財務情報を刊行物にて八木学園受付にて公開している。

## (9) 法令等の遵守

評価項目	評価			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
学生の個人情報の取り扱いは慎重に行われているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

### 評価・改善点

法令等の遵守はしっかり行われている。自己評価、学校関係者評価の問題点の改善はさらに進めてく必要がある。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
公開講座・出前講座の受託等を実施しているか	④	3	2	1

### 評価・改善点

2022年は舞台衣装製作の依頼など、外部の方からの依頼が少し増加した。

企業の依頼で作品を製作し、実際の仕事の流れを体験することは、プロとして役立つ実践力を身につける上で必要なので、依頼があったら積極的に参加していきたい。